

安倍首相と東北との関わり



宮城
深田 一 弥

I はじめに

この度、国民の圧倒的支持を受けて安倍晋三首相が誕生した。安倍内閣は小泉内閣が残した負の遺産をどれだけ解消できるかに国民の期待が掛かっているとも言えよう。安倍氏の地盤は山口県で、長州人ではあるが、そのルーツは東北にあるとも言われている。

II 蝦夷の俘囚（朝廷に帰服した豪族）安倍氏

東北は有史以来、蝦夷地と呼ばれ長らく朝廷による侵略が続いた。しかし「祭るわぬ民」と呼ばれたように、文化の違いや、中央からも遠く、9世紀初頭に征討を果たした坂上田村麻呂以降も俘囚と言われた地元豪族を通じた間接統治にせざるを得なかった。その中で10世紀頃から急速に力を付けてきたのが、奥六郡（現岩手県内陸部）を支配していた安倍氏である。その地が優良な軍馬、軍刀の産地であり、何より金の産出も大きかった。当然朝廷もその富を羨んだろうが、安倍氏の中央や多賀城等出先機関への巧妙な懐柔政策で、その野望を事前に食い止めていた。

III 源氏の野望と安倍氏滅亡

安倍氏は11世紀中頃の頼良時代に栄華は頂点に達する。当然朝廷等への各種工作は豊富に続けていたものの、受けた側にはそれ以上を望む輩が出るのも人間の当然の性であろう。多賀城国司の藤原登任は、その富を我がモノにせんと兵を出すのが破れて中央に逃げ帰り、安倍氏謀反の讒言をする。朝廷は、当時関東で急速に力をつけて来た源氏の頭領頼義を遣わす。安倍頼良は直ちに恭順の意を表し頼時と改名もし、必死に朝廷工作も行い一旦事は収まる。しかし今度は源頼義が安倍氏の富に目を付け、任期切れ直前から十年近くの歳月を掛けて安倍氏を滅ぼす。いわゆる前九年の役である。頼時は既に戦傷で没し、安倍側の3将軍、次男貞任は戦死、女婿で朝廷軍から寝返った藤原経清は捉えられ極刑に、三男宗任は降伏した。京を引き回された宗任に公家の一人が一本の枝を見せ、「これは何だ」と問うと、間髪を入れず「我が国の梅の枝とは見たれども大宮人はいかが言ふらん」と歌で返し、その公家は顔色無かったと言う。宗任

はその後九州或いは四国に流されたが、源頼義の子義家（弓の名手八幡太郎）は宗任の能力を惜しみ、自軍の参謀に取立て多くの戦果を挙げ、後、長門（山口）に配したと言われる。安倍晋三氏の父君晋太郎氏が生前、岩手の知人に自分の祖先は安倍宗任だと語ったのが、噂の発端と聞いた。

IV 義経と佐藤兄弟

安倍氏を滅ぼし目的を果たしたかに見えた源氏は、連合を組んだ蝦夷俘囚の清原氏にその成果を持って行かれる。その後、奥州鎮守府將軍となった清原家の内紛を利用し、源氏は3年を掛け清原家をも滅亡させる。これが後三年の役である。ここでも源氏は私闘に関わったと朝廷から断罪され、その成果は藤原経清の子で安倍・清原の両家を継ぐ清衡が受けることになる。11世紀末、清衡は長年続いた戦乱を憂い、平和を希求し浄土思想の理想都市平泉を作った。核となる中尊寺には敵、味方の別なく戦死者が祀られた。その思想は次代に繋がるが、3代目秀衡の時、源氏の直系義経が平泉に保護を求めて入る。その後兄頼朝が兵を挙げると聞くや、止めるのも聞かず義経は頼朝への参陣を強行する。やむなく秀衡は知略に長けかつ勇猛な佐藤継信・忠信兄弟を付ける。その後の義経の活躍はあまりにも有名であるが、何れもこの佐藤兄弟率いる蝦夷武士騎馬軍団による戦果と考えられる。しかし頼朝に疎まれた義経は後、西国へ都落ちをし、そこで佐藤兄弟も戦死する。その母は非常に悲しみ、兄弟を懇ろに弔ったのが福島市郊外飯坂にある医王寺である。安倍晋三氏の母方の祖父は岸信介元首相であるが実家は佐藤家で、その実弟は沖繩返還時の首相、栄作氏である。栄作氏は首相時に来福の際、先祖が祀られている医王寺を訪ねたと言う。

V おわりに

12世紀に入り、幕府を開いた頼朝は平泉藤原氏を滅ぼし、頼義から百数十年を経て源氏は奥州征定の野望を果たした。

ところで、3人の首相で姻戚関係にある安倍・佐藤両家の先祖が東北で、中央に抵抗した蝦夷武士であるのに興味を引かれるが、何れも伝聞によるもので確証はない。しかし、晋三氏に近い或る国会議員に尋ねると、「全てご本人から聞いてます」と応えた。

奥州市（旧水沢市）と隣接の金ヶ崎町に続く一帯、東北自動車道に接する場所に「鳥海の柵跡」の看板がある。鳥海三郎と呼ばれた安倍宗任の館跡である。現在、安倍自民党に対抗するもう一方の旗頭、民主党小沢一郎代表が平泉を含めここを地盤としているのも、何かの因縁と言えようか。